木曜 Biz 企業を歩く

設備増強 海外勢と勝負

昭和電気鋳鋼

中国や韓国に奪われたシェアを取り戻す――。そんな思いで、高崎市にある工場の設備投資に踏み切った。

一つは、昨年11月28日に稼働を始めた鉄のスクラップを溶かす炉。もう一つは溶かした鉄を流し込む砂製の型を造る機械で、今月14日に竣工式を行う予定だ。

社名にある「鋳鋼」は一般的な鉄よりも伸びや粘りがある。硬い鉄より割れにくく、鋳鋼で作る部品は強い衝撃がかかる部分に使われる。

海外の資源採掘の現場などで使われる「ホイールローダー」のショベルの爪の部分や、車両とショベルをつなぐアームなどはその典型。ホイールローダーの生産が多い大手建設機械メーカーは、この会社の主要取引先の一つだ。

エレベーターの緊急時に作動するブレーキの部品も作る。都心の超高層ビルで採用された。新幹線のブレーキの部品の一部なども手がけた。そんな部品の数々を、重さ2～3キロのものから3～4トンのものまで、月に250～300種類作ってきた。

熱の加え方や冷まし方など、熱処理の仕方で粘りが違ってくる。ものづくりとしてのハードルは高い。ただ、鋳鋼の部品の中でも量産しやすい中・小物は安価な中国や韓国製品に押されている。

「国内メーカーから、できれば日本の部品を使いたいという声がある。社運をかけた投資です」。手塚加津子社長(58)は話す。難易度の高い分野で優位性を保ちつつ、今回の投資で、量産分野での受注獲得もめざす。

手塚社長は創業家の3代目。父親で2代目の天野和雄社長が01年に死去し、その3年後に総務部長として入社した。07年に社長になった。

天野氏の闘病が続いたこともあり、入社時には経営状態が悪化していた。入社の前は主婦で、会社経営の経験もなかったが、同業の社長から助言を受けるなどしながら経営再建を進めた。

特に、個々の社員と対話を重ねて人員の適正配置に取り組んだ。定年で顧問に退いていた井田豊さん(70)を現場責任者として登用。製造現場と営業の連携を密にするため東京営業所を廃止した。

在庫の無駄がなくなり、作業効率も高まるとされる「5S活動」(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)も展開し、定着させた。

「おかしいと思ったことを一つずつ解決しただけ」と手塚社長は言う。こうした積み重ねで、3%台だった製品の不良率が半減し、借金も半分に。新たな設備投資ができる環境を整えた。(長屋護)

昭和14(1939)年創業の鋳鋼メーカー。資本金1億円。本社・工場は高崎市倉賀野町。従業員90人。2014年3月期の売上高は約23億円を見込む。建設車両や鉄道車両などの部品を手掛け、生産量は月産450～550トン。品質保証と環境に関する国際規格を取得している。

時間があれば作業現場に顔を出すという手塚加津子社長＝高崎市倉賀野町

飛鳥の魅力 語る

東京国立博物館で開かれる特別展「キトラ古墳壁画」(4月22日～5月18日)の併設展「飛鳥―キトラ2016―」(奈良県明日香村など主催、朝日新聞社共催)の記念イベントの参加者を募集している。

イベントは①4月22日午後1時から「飛鳥の魅力を語る」。上野誠・奈良大教授が「明日香で考える・明日香から考える」と題して講演。演出家・宮本亜門さん＝写真右＝らを交えた対談もある。②同27日午後1時から「ひとをつなぐみち 映画で語る飛鳥の魅力」。映画作家・河瀬直美さん＝同左＝の「朱

がん征圧寄金
日本対がん協会
03-5218-4771
「乳がんをなくす ほほえみ基金」へ 2万1100円 とりせん及びホクトにおけるイベント実施での寄付金として

TOYOTA
レンタリース
ETC トヨタレンタカーはナビ&ETC付き
※トラックの一部にはナビの設定がない場合もございます。
乗いすに乗ったまま すんなり。
Welcab ウェルキャブシリーズ
ヴォクシー 乗いす仕様
助手席リフトアップ仕様も用意しています